

今回は、地下鉄二十四軒駅から徒歩10分、共同生活援助「㈱りるむ」にお邪魔してきました。

㈱りるむは、就労継続支援事業所とグループホームなどの運営を行う「NPO法人しまりす」から、

グループホーム部分を一部分社化する形で平成26年4月に開設されました。

現在、施設数は札幌市内に28箇所、メインの利用者は精神障がい・知的障がいの方となっております、約200名の利用者に対し、100名弱のスタッフで支援を行っています。

1 施設の特徴について

㈱りるむのグループホームは、「アパート・マンションタイプの外部サービス利用型」となっており、一般のアパートやマンションの全て、もしくは一部を借り上げてグループホームとするタイプで、主に一戸を食堂・共同部屋として使い、利用者には他の入居者と同じように一戸そのまま使ってもらった形となっています。そのため、利用者のプライバシーがしっかりと確保でき、一人暮らしに近い感覚で支援ができる点が特徴となっています。

2 支援体制について

㈱りるむでは、利用者4名に対

し1名のスタッフを置くことを基本とし、朝食・夕食を作り、相談やお部屋の中の支援などを担う「現場スタッフ」、夜間に共同部屋で待機し、夜間の相談や緊急時の対応などを担う「夜間スタッフ」、現場スタッフと夜間スタッフとの連絡調整のほか、支援の構成と調整、作業所や相談室、病院、役所などの外部との連絡調整などを行う「巡回スタッフ」で構成されています。

支援の方向性については、最低限の基本的なルール以外は、利用者1人1人とじっくりと話し合うことで決めています。「利用者がやりたいこと」「や」「何が苦手なのか」などを話し合いの中で探り、「まず利用者にもやってみよう、できないことを支援する」という形となるよう心がけています。時には失敗することもありますが、利用者の行動の結果が出るまでは見守り、その後、「こういう結果になったんだね。これからどうする？」とフォローアップをしていくことで、「利用者が自分でやった」という経験を積み上げていけるように支援を行っています。そのためにも、利用者がスタッフに心を開いて話をできるようになるのが大切であり、信頼関係作りのために数年をかけて息の長い支援を行っていく場合もあるそうです。

3 これまでの支援例やイベントなど

これまでの支援例では、部屋の壁紙やクッションフロア貼り、塗装塗りなどをスタッフで行ったり、



スタッフのみなさん

引越しのお手伝いを利用者と一緒をしたり、利用者が㈱りるむのスタッフとして働いたりすることもあるそうです。

また、2ヶ月に1回ほど、食事会(お寿司職人さんに来てもらい、グループホームでお寿司を握ってもらったこともあるそうです)やピュッフェ付き日帰り温泉、小樽の日帰り観光などといったイベントも開催するなど、アットホームで、明るく楽しい雰囲気作りがなされているように感じられました。



施設の一例。一見すると一人暮らしに見えます

最後にPRポイントをお伺いしました。「『できないこと以外はなんでもやる』をキーワードに、利用者にも何でも相談してもらえそうな風通しの良い関係づくりを心がけています。利用者の「こういうことがやりたい!」という思いを尊重しながら、その実現のためにじっくりと時間をかけて支援を行い、時にスタッフも利用者とは様々な出来事を通して学びながら、利用者と共に歩んでいけるグループホームだと考えています。どんなことでもお気軽にご相談いただき、ぜひ見学などにもお越しただければと思います。」

〈問い合わせ先〉0600・00008
札幌市中央区北8条西23丁目1・10
前田ビル2F

共同生活援助 ㈱りるむ

電話 011・611・8215

FAX 011・611・9805

てく Take ちゅう Walking 37

『お仕事拝見!』